

あなたは、どう思っていますか？

家庭で

子供の世話やしつけは母親がすることで、父親が口を挟むことではない。

料理や掃除など、家事全般は女性の方が向いている。



家事や育児は女性がするものと決めつけていませんか？

家庭での仕事を、家族のうちの一人に押しつけると、心理的負担は増大します。性別に関わりなく、家事、育児、介護など、家族全員で役割を分担して、協力し合いましょう。



あなたの社会に対する意識を確認してみましょう。

仕事場で

育児休業・介護休業は、女性のためのもので、男性は取らないほうがいい。

女性は家庭があるのだから、仕事の時間は短く、責任の重くない仕事に携わるべき。



「男性は仕事、女性は家事」や「男性は営業、女性は事務」と決めつけていませんか？

職務分担の固定化は、意欲と能力を持ち合わせた女性の活躍の場を狭めてしまいます。男女がともにいきいきと働ける環境を作りましょう。また、育児や介護に関わることで、家族とのふれあいの機会を得ることができ、仕事と家庭・地域活動のバランスの取れた生活を送ることができます。



政策決定の場で

自治会やPTAの会長は、男性が務める方が信頼感があり、うまくまとまる。

PTA等の団体では、女性が中心に活動すればよいが、運営に意見するのは出しゃばりだ。



責任ある地位には、男性が就くものと思いませんか？

行政、企業、自治会などにおいて、女性も男性も関係なく対等な立場に関わりましょう。女性の意見を運営に反映させることで、多様な視点を盛り込むことができます。



地域で

地域の清掃活動などには、地域と接点のない男性は出て行かないほうがよい。

地域活動は、仕事をしていない女性や高齢者に任せておけばよい。



仕事に専念するあまり、地域の人間関係がおろそかになっていませんか？

男女に関わらず世代を超えて、地域での防犯活動や地域ぐるみの子育て、高齢者の生きがいづくりに取り組みましょう。地域活動を通して、地域の人間関係が密接になれば、地域の一員として責任感も生まれ、自分のまちに対する愛着も芽生えます。

